

厚生労働科学研究費補助金

(障害者対策総合研究事業 (障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)))

(総括・分担) 研究報告書

群馬県精神科入院患者のロコモティブシンドロームおよび身体機能の実態調査

研究分担者 筑田 博隆 群馬大学 教授

研究要旨

本研究の目的は、精神科入院患者におけるロコモティブシンドローム (ロコモ) および身体機能の実態を明らかにすることである。

A . 研究目的

本研究の目的は、精神疾患患者、特に入院患者のロコモティブシンドローム (ロコモ) およびサルコペニアの実態を明らかにすることである。

B . 研究方法

本研究ではロコモの有病率、サルコペニアの状態を評価し、精神疾患患者のロコモ、サルコペニアの実態およびリスクを評価することで、精神疾患患者における栄養・リハビリの妥当性・必要性に関する提言を作成する。サンビエール病院 (群馬県高崎市) 精神科入院患者および外来患者を対象とする。ロコモ25と片脚起立時間の測定を用いてロコモの有病率を、握力計、体組成計を用いてサルコペニアの状態を調査する。ロコモ25については患者本人の自己判定と医療者 (作業療法士) による判定を独立して行い、精神患者が自己の身体能力を過大評価する可能性も同時に判定する。握力、体組成計による筋量測定についてはそれぞれの機器を用いて測定を行う。

(倫理面への配慮)

本研究は、ヒトを被験者として相手方の同意と協力のもとに実施する研究であるため、被験者の人権ならびに安全性の確保のために特段の配慮を行った。研究プロトコルは各施設の倫理委員会に申請し承諾を得た。本研究が人権保護実験の事前に書面にて実験内容および注意事項を通知し、被験者の自由意思による同意書への署名・捺印をもって同意を得ることとしている。被験者には実験中いかなるときも自らの意思によって実験を中止できることを周知徹底している。実験結果の公表に際しては個人の特定が行えないよう配慮するとともに、データ分析時にも個人名が特定できないよう個人情報管理している。

C . 研究結果

平成31年1月までに125名の研究同意を文書にて取得し、ロコモ25の判定結果は自己判定可能では58名 (46.4%) が、医療者判定では69名 (51.4%) が陽性であり、精神疾患患者は自己の運動能力について過大評価している可能性が考えられた。また、片脚起立時間の測定は男性30名、

女性31名について測定を実施し、そのうち15秒以下であったのは男性20名 (66.7%) 、女性21名 (67.7%) であった。

サルコペニアの状態については65名の患者を対象に握力を測定した、対象は男性32名、女性33名、平均年齢64.9歳であった。男性2名、女性4名本人の拒否により測定を中止した。握力測定の結果、男性32名のうち18名 (56.3%) がサルコペニアの基準値である26kg未満であり、女性33名のうち23名 (69.7%) が基準値である18kg未満であった。筋肉量測定はBIA法で行い男性32名、女性33名に行った。この検査でも男性2名、女性4名測定不可能であった。骨格筋量指数の平均値は男性6.87kg/m²、女性6.65kg/m²でありサルコペニア基準値未満は男性13名 (40.6%) 女性11名 (33.3%) で、筋肉量、握力によるサルコペニア判定では男性8名 (25%) 、女性8名 (24.2%) 、全体で24.6%の有病率であり、ロコモ有病率50%より低い結果となった。

D . 考察

精神疾患および精神病院への入院は、ロコモや身体機能に関連していることが示唆された。また、ロコモについては精神疾患患者では自身の身体機能を過大評価する可能性がある。

E . 結論

精神疾患患者におけるロコモ有病率は約50%であり、サルコペニアの有病率は約25%であった。

G . 研究発表

1. 論文発表
原著論文 13件
2. 学会発表
口頭発表 22件

H . 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

